

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
～Vol.10 ルワンダ視察報告～

ご担当者の皆様

日頃から TABLE FOR TWO プログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションや PR 等のご参考にして頂ければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしく願いいたします。

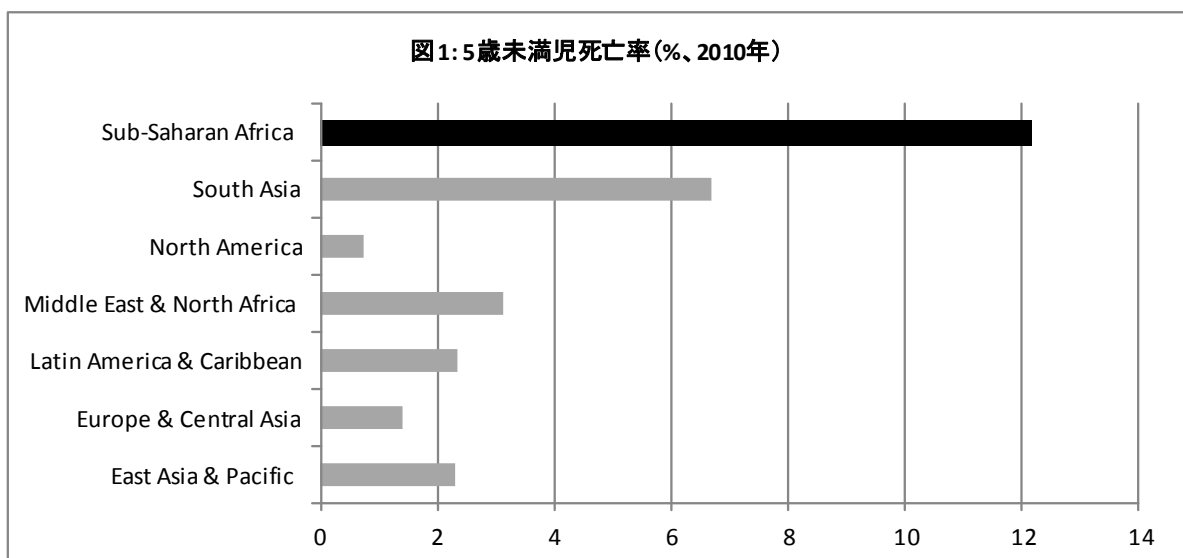
【補足資料 Vol.10 をお送りするにあたって】

本年 7 月、2008 年から支援を行っているルワンダにて、視察を行って参りました。ルワンダでは TABLE FOR TWO (以下 TFT) がこれまで支援してきた小学校での給食プログラムに加え、昨年 2010 年 9 月より幼稚園での給食プログラム支援も開始しています。小学校での給食同様に、幼稚園での給食も様々な重要な側面を持っています。今回の補足資料では、サハラ以南アフリカでの小学校就学前児童の健康についての概要、その対策として実際に行われているルワンダ・バンダ村での取り組みの様子をお伝えさせていただきます。

1. サハラ以南アフリカにおける小学校就学前児童の健康状態

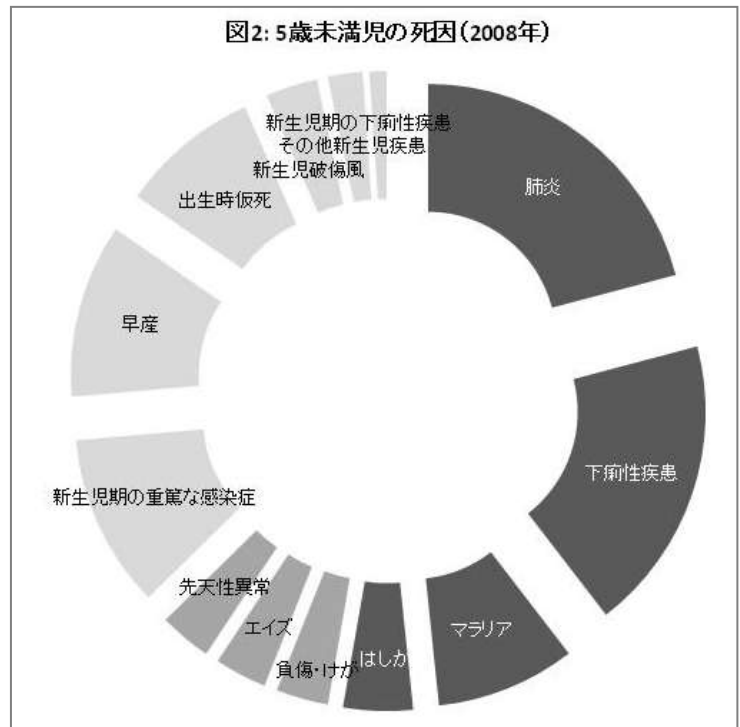
※国連機関では、小学校就学前児童を乳幼児(0~5 歳)として扱っているため、ここでもその年齢区分を用いています。

国連が制定しているミレニアム開発目標 8 つのうちの一つにも提言されているように、乳幼児の死亡率を低下させることは世界的な課題となっています。特に図 1 からわかるように、サハラ以南アフリカでの 5 歳未満児死亡率は平均で 12%に達しており、他地域と比較しても深刻な状態となっています。TFT の支援地域に注目してみると、エチオピア 10.6%、ウガンダ 9.9%、ルワンダ 9.1%、マラウィ 9.2%と、サハラ以南アフリカ平均値を下回ってはいるものの、依然改善が必要な状態にあります。



参考: The World Bank

サハラ以南アフリカにおける高い乳幼児死亡率は、どのような要因によってもたらされているのでしょうか。図2は、世界の5歳未満児の死亡要因を示しています。多くの条件と病気が相互作用することにより、子どもの死亡率は増加します。図2にも示されているように、栄養失調からもたらされる死は、全体の約半数を占めています。これらは、日頃から適切な栄養を摂取できていれば防げる病気です。しかし、家庭の資金不足、親の栄養に関する知識不足などの原因により、サハラ以南アフリカを中心とする多くの開発途上国では、未だに大きな課題となっています。



参考: 世界子供白書 2008、UNICEF

2. TABLE FOR TWO 支援地域・ルワンダ、バンダ村での取り組み

TFT では、ルワンダ国内 2 地域(マヤンゲ地区、バンダ村)にて 2010 年 9 月より幼稚園給食の支援を実施しています。ルワンダ南西部ニュングウェ国有林地区内に位置するバンダ村では、村のコミュニティーが一体となった給食運営の仕組みが動き始めています。



▶ 給食



他地域の小学校給食プログラムと同様に、給食は地域住民たちによって運営されています。給食運営を地域住民に任せることで、この地域にとって貴重な現金収入の機会を生み出しています。

バンダ村では、ほぼ全ての家庭が小規模零細農業を営んでおり、余剰生産物が得られたときのみ村のマーケットでそれらを売り、わずかな現金を得ています。その他には、この地が国有林ということもあり、外国人観光客のためのガイドとして働く人もいます。しかし、ガイドとして働くためにはある一定レベル以上の教育を受け英語を話せなければならず、限られた一握りの人のみが就ける職でしかありません。また、林を伐採し炊事用燃料として近隣のマーケットで売ることを通して現金収入の機会を得ている人もいます。この仕事に従事する人々は、無秩序に森林を伐採し燃料として販売しています。彼らにとって、何年も先に起こりうる環境への影響よりも、今日現金を得られるかどうかのほうが生活に大きく影響します。そのため森林の栽培は加速し、深刻な森

林破壊を引き起こしています。

このような環境の中、準備・調理・配膳・片づけという給食プログラム運営の一連の流れにおいて現地の人々を雇用することは、貴重な現金収入の機会を生み出しています。現在の給食室の大きさの制限上、一度に作業できる人数は限られていますが、今後給食室を拡大し、さらに多くの村人たちを巻き込みながら、より多くの子どもたちへ給食を届けていくことが計画されています。

▶ 環境配慮型燃料・ブリケット

バンダ村では、給食を運営するにあたり、燃料を安定的に確保するという点も重要な要素となっています。上記でも述べたように、バンダ村では各家庭レベルでも、調理用に国有林の木材を薪として使用することが多くあります。そのため、現在ではゴミとされるダンボールや木屑を用いた燃料・ブリケットの製造が始まっています。

ブリケットには 2 つの大きな利点があります。1 つは、資源を再利用して製造しているため、森林の伐採数を減らすことができ、この地域の環境保全へつながるという点があげられます。また別の利点として、調理する際の環境にも配慮できるという点があります。バンダ村の給食室のような、適切な喚起設備が整えられていない環境の中、薪を用いて調理することは、その場で調理をする人の健康へ悪影響をもたらします。多くの煙がキッチンに充満している中で調理することは、長期的に見ると肺がんのような呼吸器系の疾患をもたらす危険性があります。このブリケットは、燃やした際の煙の排出量が少なく、調理をする人々へも配慮した燃料となっています。

現在、ブリケット製造は開始されたばかりであり、まだ給食に必要な燃料すべてをカバーできるほどの生産量には至っていません。しかし今後はブリケットをより増産し、余剰分を販売し利益をコミュニティへ還元できるようにすることを目指しながら、持続可能性の高い給食プログラム運営を目指していきます。

《ブリケット製造の過程》



1. ダンボール・木屑を集める



2. 水に浸す



3. 液状に近くなるまで混ぜる



4. 特別なプレス機に入れ、圧縮する



5. 天日で2日乾燥させる



6. 室内で1週間乾燥させ完成

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料
 ～日本での実施状況～

参加組織

⇒ 計 456 の組織で実施中 (2011 年 10 月 27 日現在)

内 訳	団体数	割 合
1. 企業	221	48%
2. 学校	82	18%
3. 店舗、小売食品	82	18%
4. 官公庁、公的機関	27	6%
5. 病院	11	2%
6. その他	33	7%
計	456	

これまでの寄付総額 ※TFT 事務局に入金された寄付金額ベースで給食数を換算

- 2007 年度の寄付総額
56,737 食分 (約 260 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2008 年度の寄付総額
597,652 食分 (約 2,720 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2009 年度の寄付総額
2,122,627 食分 (約 9,650 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2010 年度の寄付総額
3,815,507 食分 (約 17,340 人の子どもの 1 年分の学校給食)
- 2011 年度上半期 (1~6 月) の寄付総額
2,632,062 食分 (約 11,960 人の子どもの一年分の学校給食)
- 2011 年度 7 月~9 月末までの寄付総額
1,450,606 食分 (約 6,590 人の子どもの一年分の学校給食)

⇒ 合計 1,067 万 5,191 食分 (約 48,520 人の子ども 1 年分の学校給食)